

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

全国・県と比較し、 $\pm 5\%$ の差が見られる内容中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用する。

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○「落胆する」の意味や「推し量る」という漢字は全国・県と正答率はほぼ同等であった。

○情報の扱いに関する事項についても全国・県とほぼ同等であった。具体と抽象など、情報と情報との関係についての理解は全国・県よりも高かった。

●「いひける」を現代仮名遣いに直す問いは全国よりも正答率が低かった。古文を読み取ることに苦手意識を持っている。○古典の原文と現代語の文章を対応させて内容を捉えることは全国・県よりもできていた。

《話すこと・聞くこと》

○全体に概ね良好で、特に目的や場面に応じて質問する内容を検討する問いでは全国・県よりも正答率が高かった。

《書くこと》

○全体に良好で、全国・県よりも正答率が高かった。

○レポートの下書きの一部について、書き直す意図として適切なものを選択する問いの正答率が全国・県よりも高かった。

《読むこと》

○全国・県とほぼ同等の結果であった。

○現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて記述する問いでは全国・県よりも正答率が高かった。●しかし、無回答率も高く、全国・県も同様であるが2割近くの生徒が回答していない。

●読書について書かれた二つの文に共通する表現の効果の説明を選択する問いでは県よりも正答率が低かった。十分に二つの文を読み込めていなかったと思われる。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

○国語の学習が好きな生徒が「どちらかと言えば」を含めると8割以上を占め、全国・県よりも国語好きが多い。授業についてもよくわかると答えた生徒が多い。行書の基本的書き方や、自分の考えを分かりやすく伝えるために聞き手の立場に立って考えること、根拠を明確にするために必要な情報を引用するなどのことも取り組んでいると答えている生徒が全国・県よりも1割近く多い。

【 数学 】

《数と計算》

○全国・県より正答率が高い。

○特に、始めの数にける数が2，足す数が6ならば計算結果は常に3の倍数になることの説明を完成させる問いと、その結果から、始めの数にける数がいくつ、足す数がいくつであれば結果が常に4の倍数になるかを説明する問いでは、記述式にも関わらず全国・県よりも正答率が高かった。●4の倍数になる説明は全国・県と同様に2割以上の生徒が無解答であった。

《図形》

●全体に正答率が低く、半数以上が正答にたどり着いていない。全国・県と同様。

○空間における平面が1つに決まる場合の記述を選択する問いでは、全国・県よりも正答率が高かった。

○三角形の合同を基にして、錯覚や同位角が等しいことを示すことで二つの直線が並行であることを証明する問いは全国・県よりも正答率が高かった。無解答も全国より低かった。

《関数》

○概ね全国・県と同等であった。

○グラフで表されていることを事象に即して解釈することができるかを問う問題では全国・県よりも正答率が高かった。

●グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明する問いでは全国・県の正答率も4割程度であるが、本校は4割にも届かなかった。前問が7割以上の正答率であったにもかかわらず、記述式が無解答の多さにつながった可能性がある。

《データの活用》

○全国・県よりも正答率が高かった。

○箱ひげ図に関わる問いは全国・県よりも正答率が高かった。複数の集団のデータの分布を比較して、判断の理由を数学的な表現で説明することができるかを問う問題では記述式にもかかわらず4割以上の生徒が正答している。

《生徒質問紙 数学に関する質問》

○数学が好きな生徒は全国・県と比較しても1割以上多く、「どちらかと言えば」も含めると7割以上が好きと回答している。

【 英語 】

《聞くこと》

○県も良好な結果であるが、全国と比較して、どの問いも高い正答率であった。

○特に、買い物の場面での会話の内容理解や、忘れ物を問い合わせるための音声案内の理解など、実際の場面で活用できる聞き取りの水準が全国と比較して高かった。

《読むこと》

○全体として県と同等、全国より高い正答率であった。

○図書館について書かれたものから概要をつかむ問いや、ロボットについて書かれたものから書き手の最も伝えたい内容を選択する問いでは、全国・県よりも高い正答率であった。

●友達からのメールとイベントのチラシの両者から情報を読み取る問いでは正答率は県と同等であるが、平易な英文であっても複数の情報源から適切に情報を拾い出す力が弱いことが見て取れた。

《書くこと》

●全国よりも正答率が高いが、県と同程度の低い水準であった。全国は2割程度、県は3割程度。短答式でも3割程度の正答率の問いがあるので、課題が残る。

○ロボットについて書かれたものに対する自分の考えとその理由を書く問いでは、自由記述式で正答率も3割程度と低い、全国・県よりは良い結果であった。

●疑問詞を用いた疑問文を文脈に合わせて書く問いでは全国よりは良かったが県よりは低い正答率であった。

《話すこと》

●5問の全てにおいて全国同等に低調であった。短答式であれ、説明形式であれ、変わらずの低調ぶりは調査の形式（一人ずつ web 上に録音）に慣れていないことも理由と考えられる。また、場面に応じて即興で対応することには慣れていない。

《生徒質問紙 英語に関する質問》

○英語の学習が大切、将来役立つと思っている生徒は多いが、●国語や数学と比較すると好きだという割合は5割程度と低い。

○将来英語を使う生活をしたいという割合も全国・県よりも高く「どちらかと言えば」を含めると5割以上となった。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

○朝食を取る、毎日同じ時間に就寝することなど、ご家庭の協力が大きな力で生徒達を支えてくれている。また、自己肯定感も高い。●しかし、「いじめはどんな理由でもいけない」という生徒の割合は全国・県よりも低いところが気になることである。「新聞を読む」「図書館に行く」という頻度も全国・県も低い、本校も同様に低い。○学習時間は全国と比較すると長い、●自分で計画を立てて学習している割合は低い。塾や家庭教師に依存していないかが心配である。○ICT 機器の活用は、学校の授業でも家庭の学習でも使用頻度が高く、また、自分の考えを発表する機会には自分で工夫しているという生徒の割合も高い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・教科の授業や総合的な学習の時間の中で ICT 機器を活用した学習や自分の考えをまとめて発表する取り組みを重ねてきたことが生徒達にも自覚されており、また力にもなっている。今後もこれまでの取り組みを更に工夫しつつ継続させていきたい。
- ・どの教科でも、短絡的に結論づけるのではなく、情報を読み取り把握する力、複数の情報を粘り強く整理する力を培う必要がある。深い学びにつながるよう授業の組み立ても工夫していきたい。
- ・朝読書にも取り組んでいる。読書好きを増やし、図書館に親しみを持ってもらうためにも工夫を続けたい。
- ・ご家庭の協力で生活のリズムが整っている生徒が多い。今後もご家庭との連携を図りながら、生徒達のより良い成長を助けていく。